

今、求められていること！

新型コロナウイルス感染拡大の中、五月二十八日現在において五百五十万人近くの方々がお亡くなりになっておられます。現在日本では、「緊急事態宣言」が解除されたばかりです。五月末まで、本山をはじめ別院・各お寺において、すべての研修会がストップしている状態であるが、今後はどのような教化ができるでしょうか。

緊急事態が解除されても、日本全体が三密（密集・密接・密閉）にならないように注意喚起しつつ生活を送るよう呼びかけられています。これを続けても急に以前のように戻るわけではないと言われています。「新しい生活様式」という言葉さえ使われています。さて、「聞法」は、どうでしょうか。先日「お通夜」の時です。出来るだけ短い法話でお願いしますと言われました。中には読経された後、法話をせずに退出される僧侶もおられるということでした。大変な事ではないでしょうか。もちろん「不安」（新型コロナ感染）を抱えているのは、一人一人今まで経験したことがない以上当然です。「しかし」と止まらなくてはなりません。「いつこの感染症がなくなるのか誰も予測出来ない」としてもその対応は長期を覚悟に考えなくてはならないと思います。この中で考えるべき事、今すべきことを、将来を見据えて考えるべきであります。

まず考えられるのは「文書伝道」と言うことです。今こそ「同朋新聞」・「本山出版物」などを中心に門徒さんに届けることです。「寺報」もいいでしょう。年間を通して毎月は出来なくとも、全くされていない寺院でも一回でも二回でも、まず「文書伝道」を出発できないでしょうか。今まで以上に大切にされることであり、私にとっても大きな課題であります。

各お寺にとって、さらに問題を感じるのは「聞法会」であります。三密になるので全てストップではないかがでしょうか。三密にならない本堂・庫裡の利用をこの機会に考えるべきではないでしょうか。どうしたら三密を防いで「新しい聞法生活」ができるか、それぞれが求められているのではないのでしょうか。ちなみに、私のお寺では、三密を避けながら、五月二十八日から御命日の法要をご門徒と始めることができました。

報恩講・永代経・お盆・彼岸・命日の集い・同朋会・親鸞教室など色々、どのお寺でも法燈を絶やすまいと実践されてきた訳です。「新型コロナウイルス」の対応で、今だからこそ見えてきたもの、感じられた事があるうと思えます。私は、その一人一人が見えてきた事、感じた事、気付けた事などをご門徒と共に本堂で確かめ合いたいと願っています。本当に今気付かなければならないことは何か。このコロナ問題を機縁として門徒さんと共に「法要とは何か」等、色々な事を考える時だと思えます。ストップしているからこそ、今まで自明して来た事を共に考える機会だと思えます。本山でしかやれない事、別院でしかやれない事、各お寺でしかやれない事、一つ一つ点検する大事な時間をいただいているのではないのでしょうか。

「故親鸞聖人御物語の趣、耳の底に留まるところ」（『歎異抄』）を抛り処として我々先輩たちは語り続けてくださっておったのではないのでしょうか。私は、元の状態にはなかなか戻らないと思います。しかし、「聞法」を「いのち」としてきた大谷派の大事なことを取り戻す方法として、各お寺において人数を制限しても良いでしょうか。「ソーシャルディスタンス」、「マスク」も大切なことです。今は「聞法会」の復活を願うばかりです。当分の間、「文書伝道」が中心になるとは思いますが。私は大谷派が命としてきた「聞法会」の開催を強く望んでおります。

聞法は誰のためにあるのか。この私のためであったと頷くまで聞法をしてはどうでしょうか。仏法にふれていくことで、我が身を振り返っていききたいものです。

二〇二〇年五月二十九日

高田教区教化委員会幹事長

第六組 福成寺住職 鎮西良昭

